

# 目 次

		ページ
<b>SKYLIGHT</b> 〈今月の焦点〉	M 51 に出現した Ic 型超新星 1994 I	山岡 均 170
<b>EUREKA</b> 〈研究紹介〉	虎穴に入らずんば虎子を得ず —銀河系中心での銀河探査と へびつかい座空洞・超銀河団の発見—	長谷川 隆 176
短期連載	CCD 解体新書 その4 「CCD における電荷の転送」	上野宗孝 184
<b>ASTRO EXPRESS</b> 〈論文速報〉	合体中銀河団 Abell 168 の中の青い色の銀河の分布/ ハービック・ハロー・ジェットに先行する巨大バウショック対の発見	189
シリーズ	《公開！うちの研究室(4)》 茨城大学理学部自然機能科学科 宇宙物質大講座 電波天文学研究室	宮崎 敦史 190
雑報	すばる望遠鏡 ファーストライト・シンポジウム すばる望遠鏡 一般見学会報告	192 193
寄贈図書リスト		195
月報だより		195

## 表紙説明

赤外線天文学衛星 (IRAS) による波長  $100\mu\text{m}$  での我々の銀河系の中心近傍の輻射と、可視光での銀河探査で見つかった銀河の分布 (赤丸)。画面の左下が銀河面で  $100\mu\text{m}$  の輻射は強く (白, 赤色), 離れるにつれて弱くなる (青色)。

a) は銀河探査で見つかった明るい銀河の分布が重ねられており, 銀河の密集が所々見えるが輻射との相関は殆どない。

b) は暗い銀河の分布で, 分布は疎密が弱くなり, 輻射との相関が顕著になる。このことから IRAS の  $100\mu\text{m}$  の輻射が我々の銀河系内の吸収をあらわしていることが導かれる。

(EUREKA 参照)

(表紙イラストレーション: 藤居保子)